

【福島県】

◆組合員インタビュー



コープふくしま組合員
佐藤 栄子さん

息子一家は、福島第一原発から4kmほどの大熊町に住んでいましたが、震災後、福島市内に避難してきました。突然、故郷を離れることになり、帰れなくなってしまった孫たちは、大きなショックを抱えています。息子は、今でも仕事のため原発の近くに通っています。除染作業をしても持っていく場所がありませんし、放射能や原発に関する正確な情報が知らされない状況。震災から1年たった今、不安は解消されるどころか、募るばかりです。

◆復興へ、前へ前へ



署名フォーマット。

福島県生協連では、“安心して住める「福島」を取り戻すため”の署名活動と呼び掛けています。

福島県連HP

http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/?page_id=138

つながろう！東北の元気タオル全国で活用

3月11日、東北サンネットではいわて生協・みやぎ生協・コープふくしま全店舗の先着4万4,000人に「“復興祈念 つながろう！東北の元気”タオル」をプレゼントしました。また、同デザインのタオルを、日本生協連から全国の生協に活用を呼び掛け、35生協から、計8万4,000本の注文がありました（本誌11号参照）。各生協は、店舗や宅配での販売・配布、職員への配布、募金者へのプレゼントなど、さまざまな用途でタオルを活用しました。



いわて生協。



みやぎ生協。



コープふくしま。



ユーコープ事業連合は、東北産の米の購入者へ贈呈。



生協ひろしまは、来店者に贈呈。



コープおaitaは、組合員が販売。売り上げの一部を支援活動金へ。

他にも！

全国で復興支援ツール活用

全国の生協では、復興支援活動継続への思いと決意を表明するため、全国で共通の支援ツールを活用しています。その活用の様子を一部ご紹介します。

支援ツール

- ①支援バッジ (44生協 計5万760個)
- ②車両ステッカー (49生協 計2万2,625枚)
- ③店舗ポスター (33生協 計2,700枚)
- ④「つながろうCO・OPアクション情報」特別版 (45生協 計8万6,000部)



鳥取県生協。ステッカー、バッジ活用。「被災地に届く支援をしたいです」



コープあいつ店舗にてポスター掲示。



なお、3月には、日本生協連が『震災復興支援記録DVD (第2集)』および『震災復興支援記録集』を制作し、全国の会員生協および関連各位へ配布しています。